

# 勢多だより

OCTOBER 30, 2008

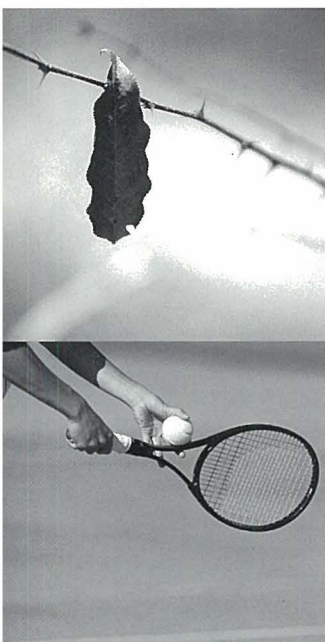
No. 81



## 「夏の課外活動」

第60回 西日本医科学学生総合体育大会  
2008びわ湖学生フェスティバル

- 文部科学省「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」が採択
- 新任教員紹介
- 海外自主研修



# SETA DAYORI No. 81

SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

## メインテーマ：「夏の課外活動」

### トピックス

- ・第60回西日本医科学生総合体育大会 -本学は総合12位- 1  
「第60回西日本医科学生総合体育大会を終えて」 2  
西医体評議員 医学科第4学年 中林 孝夫
- 「第60回西医体を終えて」 3  
テニス部医学科女子主将 医学科第4学年 菅 仁美
- 「感謝」 4  
端艇部主将 医学科第4学年 田中 佑治
- 「西日本コメディカル硬式テニス大会3連覇」 5  
テニス部看護学科女子主将 看護学科第3学年 平岡 千佳
- ・2008びわ湖学生フェスティバル 6  
「2008びわ湖学生フェスティバル『湖上祭』に参加して」 7  
びわこ学生フェスティバル実行委員 医学科第2学年 全 梨花
- ・文部科学省「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」が採択 9  
取組名：コア生涯学習型高度専門医養成プログラム

### 新任教員紹介

- ・7月 1日付 脳神経外科学講座 鈴木 文夫 准教授 10
- ・8月16日付 臨床看護学講座 桑田 弘美 教授 11

### キャンパスライフ

- ・海外自主研修  
メルボルン大学での自主研修 医学科第4学年 斎藤 英貴 12  
ケニアでの自主研修 医学科第4学年 上倉 英恵 14  
「SickKids体験記！」 医学科第4学年 益田 さやか 16
- ・滋賀医科大学奨学基金奨学生の決定 18

### インフォメーション

- ・図書館のサービス紹介 「パソコン上で論文を読もう！」 20
- ・ヨット部による追悼慰霊式 22  
追悼慰霊式を終えて ヨット部主将 医学科第2学年 山本 匠悟
- ・オープンキャンパス 23

### 編集後記(今本編集長)

トピックス

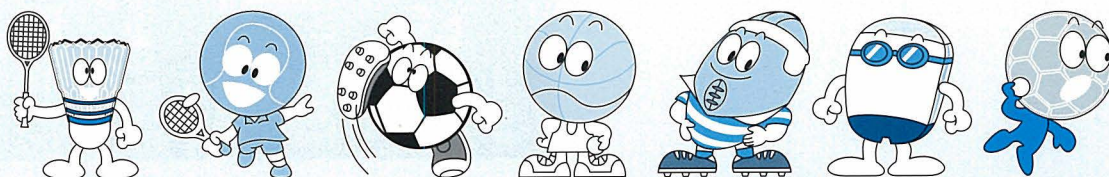
# 第60回西日本医科学生総合体育大会

— 本学は総合第12位 —

今年度の西日本医科学生総合体育大会（通称：西医体）は広島大学が主幹校として、主に7月下旬から8月上旬にかけて開催されました。

今年度は総合第12位となり、昨年の第3位には及びませんでした。全体的にベスト16以上の成績の種目が多く、コンスタントに好結果を残すことが出来ました。今年度も本学のセメスター制によるカリキュラムと大会日程の重複という難問を学生委員が中心となって克服したことにより、日ごろの猛練習の成果を遺憾なく発揮することができました。

第60回西日本医科学生体育大会結果(主要分抜粋)		
総合第12位 (231点)		
クラブ名	成績	得点
バドミントン男子	ベスト16	20.5
硬式庭球男子	ベスト16	20.5
硬式庭球女子	団体戦優勝	44
サッカー	ベスト16	20.5
バスケットボール男子	ベスト16	20.5
バスケットボール女子	第3位	23
ラグビー	ベスト8	25
水泳女子	7位	23
端艇	総合優勝、個人種目1種優勝	16
ハンドボール	5位	3



## 第60回 西日本医科学生総合体育大会を終えて

西医体評議員 医学科第4学年 中 林 孝 夫

西医体の全日程が終わった時、僕が感じたのは達成感よりも安堵感だった。

僕が西医体の評議員を引き継いだのは、去年の9月だったと記憶している。その時は、旅行が趣味の自分にとって「体育会のお金で広島に行けるなんてラッキーだ」と思っていた。

しかし、3月になり実際の仕事が始まると、その責任の重さを嫌でも気付くことになった。何しろ、もし、僕が何かミスをすれば、それまで西医体を目標に頑張ってきた人達が出場できなくなる。これは大きなプレッシャーだった。

さらに、西医体は医学科生のための大会だとは言え、当の医科学生だけの問題ではない。看護科生はマネージャーや、あるいは一緒に練習するプレーヤーとして深く関わっている。OB・OGの皆さんも応援しているだろう。だから、実際は相当な数の人が関係している。その事を、今回は気付かせられた。そして、競技が終わった時には、その努力と期待を無駄にしなかったんだという安堵感に包まれたのである。

今回の西医体では、いくつかのクラブが優勝したり優秀な成績を残してくれた事が、僕は素直に嬉しい。僕自身の所属である卓球部は成績こそ良いものではなかったが、それまでの練習成果は出せたように思う。これからも皆さんが頑張ってくれる事を祈りつつ、筆をおきたい。





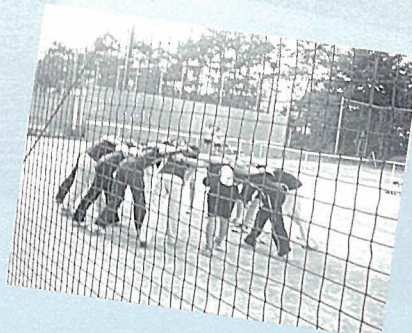
## 第60回 西医体を終えて

テニス部医学科女子主将 医学科第4学年 菅 仁美

この夏、テニス部医学科女子は西日本総合体育大会において、優勝することができました。今まで優勝を目指し、何度となく優勝を目の前にしながら、あと一步およばない年が続いていました。しかし今年、優勝杯を6年ぶりに手にすることができました。

滋賀医大女子テニス部は、伝統的に、強いチームと言われてきました。強い滋賀医大を維持しなければならない、簡単には負けられない、結果を残さなければならない、というプレッシャーが常にかかっています。しかしそのプレッシャーがかりながらも勝ってきたレギュラーは、プレーにおいても精神面においても、本当に強く、頼もしい存在でした。イレギュラーは応援、ボーラー、審判、アドバイザーとして、そのレギュラーを支え、勝ちにいくための環境、雰囲気をしっかり作りあげていました。こうして、レギュラーはイレギュラーのために、イレギュラーはレギュラーのために行動し、相乗効果で高めあえたからこそ、今回の優勝という結果を残せたのだと思います。チームが一つになれたことを実感でき、レギュラー、イレギュラーがお互いに、またチーム全体に、感謝の気持ちを持って西医体を終えることができたのが、とても印象的で、感動した夏でした。

この結果を残すことができたのも、会長の野崎先生、顧問の松末先生をはじめとするOB・OGの先生方、先輩方、現役を終えてもコートに足を運んでくださる先生方、先輩方のご支援ご指導のおかげだと、部員一同感謝しております。そしてテニス部を支えてくださっている全ての方々にも本当に感謝しています。ありがとうございました。医学科女子は西医体2連覇、そして近医体5連覇にむけて、男子と看護学科もそれぞれの目標にむけて、また部全体で頑張っていきますので、応援のほどよろしく願いいたします。



# 感 謝

端艇部主将 医学科第4学年 田中佑治

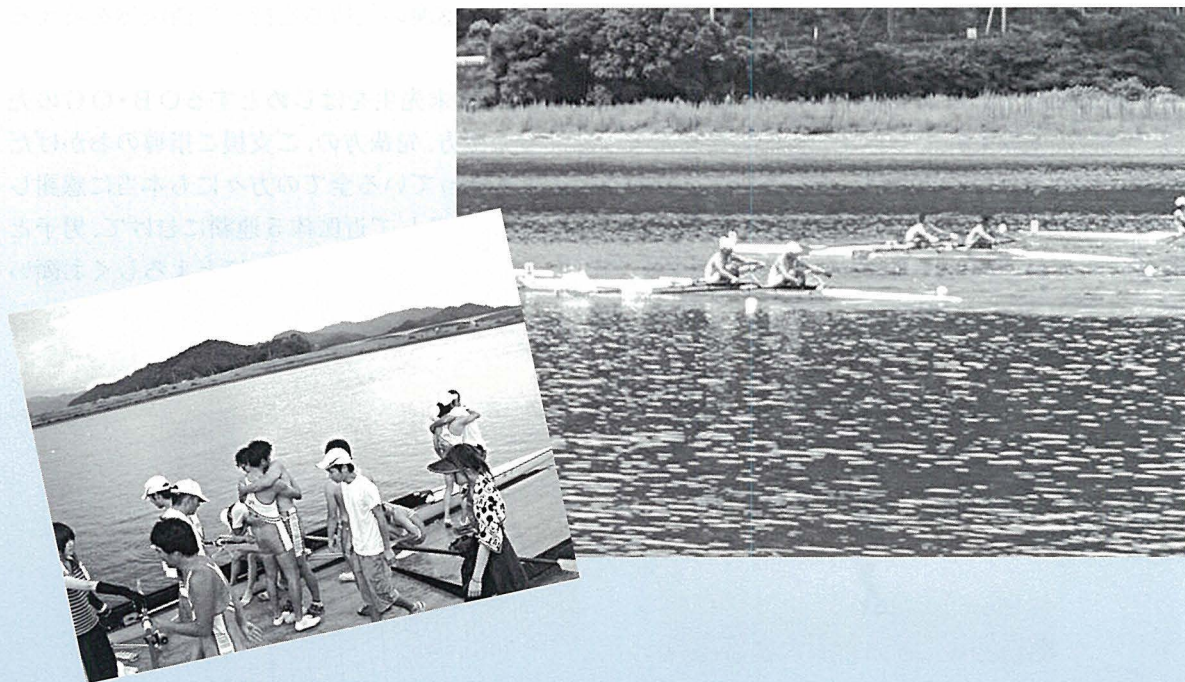
鮮やかなレモン色をした船体がゴールに向けて一直線にすべりこんでくる。ライバルの熊本、浜松は遠い。「1位、滋賀医科大学、2位、…」 そんな放送を聞くまでもない完封勝利。ガッツポーズ。四万十川の、美しい鏡のようなみなもを、選手の歓喜の雄叫びが駆け抜ける。岸で観戦していたマネージャーやローヤーたちの泣き声か笑い声かもわからない絶叫。それは、滋賀医科大学対校フォア部門、4連覇達成の瞬間であった。そして、それはすなわち滋賀医科大学前人未踏の総合5連覇という栄光の瞬間。

そう、滋賀医科大学ボート部の標語の通り、あの夏の日、青空の下。その類まれなるユニフォームカラーは史上最速の称号を生み、光り輝くレース場を、風のように駆け抜けた…………。

時は遡って新しいシーズンの前、2007年9月。幹部交代で僕たちが幹部となった。わが部は去年までに総合4連覇を達成していた。ボート部としても、滋賀医科大学としても、5連覇は未踏の域。「必ず総合5連覇!!」その一言を合言葉に僕たちは打ち込んだ。しかし、総合4連覇ということ、すなわちそれは、僕たち3回生は入部以来負けを知らないということを意味する。「滋賀医大」だから勝てるだろう、なわけがない。特に今年は、木内先輩、今井先輩を筆頭とするゴールデンエイジが引退した年。僕たちは偉大な先輩たちのプレッシャーに押しつぶされそうだった。

でも、それから西医体まではたくさんのことがあった。先輩達は今年もトップクルーとしてプレーする、と言っていた。4月には多くのいい後輩たちが入部してくれた。OBさんにはたくさんの備品を援助していただいた。顧問の野坂先生にも大変よくしていただいた。そして何より、学生課のご尽力で大学から新艇を購入していただいた。本当にありがたかった。

そして、僕たちは優勝した。結局、振り返ってみると僕がキャプテンとして成しえたことは、今まで多くの方々に支えていただいたからこそ出来たものだったと思う。ここで僕が言いたいこと、それは、たくさんの「ありがとう」です。この場をお借りして、私たちボート部をささえていただいたすべての方にお礼を申し上げたいと思います。本当に、ありがとうございました。



## 西日本コメディカル硬式テニス大会3連覇

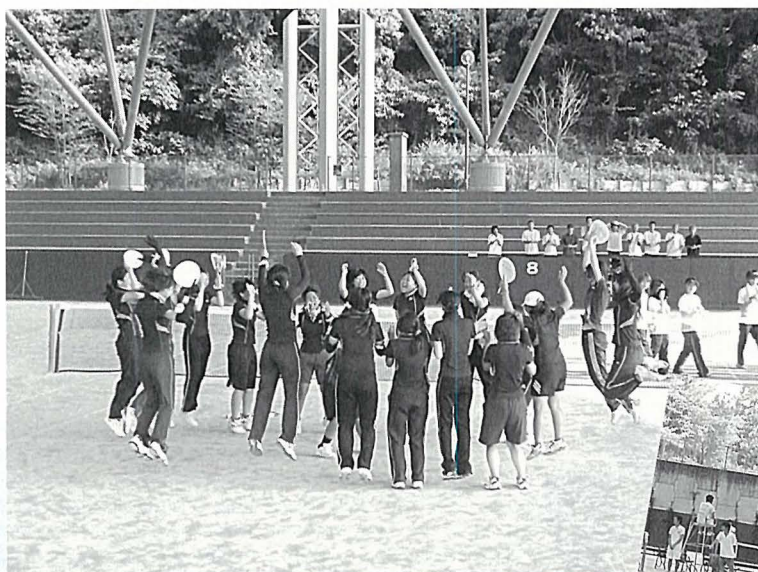
テニス部看護学科女子主将 看護学科第3学年 平岡千佳

みなさんは西日本コメディカル大会という大会をご存知でしょうか。この大会は、西医体と同時期にあり、医学科、薬学部以外の医療関係を学ぶ学生が集まって試合をします。西医体の陰に隠れてあまり目立ちはしませんが、競技種目はテニス以外にもバドミントン、水泳などがあり、西医体に出場できない私たちにとっては、一年間で一番大きな大会となります。この大会で、私たちテニス部看護学科女子は三連覇を果たすことができました。

このような結果を残すことができたのも、支えてくださった先生方、先輩方のおかげであり、部員一同心から感謝しております。

年々レベルアップしているこの大会ではありますが、私たちはレギュラー4人のうち昨年からのメンバーは2人で、ダブルス、シングル両方経験しているのは私しかいませんでした。レギュラーはレベル的にもメンタル面でも問題を抱えていました。三連覇というプレッシャーの中、練習で、私はキャプテンとして、高レベルの技術を要求し、メンタルの強化のためどんどんチームを、レギュラーを追い詰めていきました。チームのみんなには辛い思いをさせてしまいましたが、それでも一生懸命ついてきてくれて、みんなには感謝の気持ちでいっぱいです。優勝できたのは、4人のレギュラーとそれを支えた16人のイレギュラーの絆がどこのチームより強かったからだと思います。私はこのメンバーに出会って、一緒に戦えて、一緒に優勝の喜びを分かち合えて本当に幸せでした。

最後に私たちを支えてくださった皆様にこの場をお借りして感謝の意を伝えさせていただきます。本当にありがとうございました。



## 2008びわ湖学生フェスティバル

滋賀県内13大学の学生代表が企画し、実施される「びわ湖学生フェスティバル」が、今年も琵琶湖の遊覧船「ピアンカ」船上にて「湖上祭」と銘打って平成20年9月27日(土)に開催されました。本学の実行委員は、医学科第2学年の全梨花さんと三村和哉君で企画から参加しました。

当日は快晴に恵まれ、本学からは服部副学長、村山理事と学生、教職員で総勢27名が出席しました。船内で行われたビンゴ大会で服部副学長と医学科2年生の石坪昌恵さんたちのチームが目玉景品を獲得するなど、参加者は和気あいあいです分に楽しい時間を過ごしました。



乗船前のセレモニー  
(澤田副知事のご挨拶)



乗船前のひととき



## 2008びわこ学生フェスティバル「湖上祭」に参加して

びわこ学生フェスティバル実行委員

医学科第2学年 全 梨 花



右端が筆者

さる9月27日に、2008びわこ学生フェスティバルが琵琶湖の遊覧船「ピアンカ」の船上で開催されました。今回、私は実行委員としてこのフェスティバルに参加しました。初めは何が行われるのか、どういうイベントなのかがよくわからなかったのですが、実行委員会に参加し、他の大学の実行委員の人たちと接するうちにこのフェスティバルを成功させたいと思うようになりました。

さて、びわこ学生フェスティバルは、大津港からピアンカに乗るところから始まります。琵琶湖の風景を見ながら船の旅を楽しみつつ、船内で行われる

琵琶湖の環境を考える講演を聞くと、烏丸港に到着します。1時間ほど烏丸港付近を自由に散策したあと、船は帰路につきます。帰りの船の中ではビンゴ大会が行われます。

当日、私はこのビンゴ大会の手伝いをしました。このビンゴでは、ランダムで選ばれる三人が一組となっていくものだったので、参加者の人たちがお互い交流を深めながら楽しむ姿が見られました。

また、船内では学祭のピーアールも行われ、日頃交流の少ない他の大学の学祭について知ることができ、一般の人にも宣伝ができるよい機会になっていました。

私は今回、びわこ学生フェスティバルに参加して、滋賀県内にたくさんの大学があることを知りました。県内にある13もの大学が集まってひとつの大きなイベントを作り上げることは大きな意味を持っていると思います。このイベントに参加したことで私は、琵琶湖の美しさを再認識し、地域の方々との交流をはかり、同じ県に通う大学生と接することができました。私の大学生活でのひとつの素晴らしい思い出になったと思います。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださった、当日参加者のみなさま、企画を進めてくれた実行委員会のみなさま、学生課の事務の方々、その他このフェスティバルに関わった全ての人々に感謝いたします。どうもありがとうございました。



ビンゴ大会での服部副学長



参加した管弦楽団の学生たち



いざ、乗船



船上の風景



村山理事と学祭PR担当学生

# 文部科学省 「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」が採択

平成20年度「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」に選定される。

本学では、文部科学省が実施する「国公立大学を通じた大学改革推進事業」のうち、平成20年度「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」について申請したところ、去る8月1日に選定された旨通知を受けました。

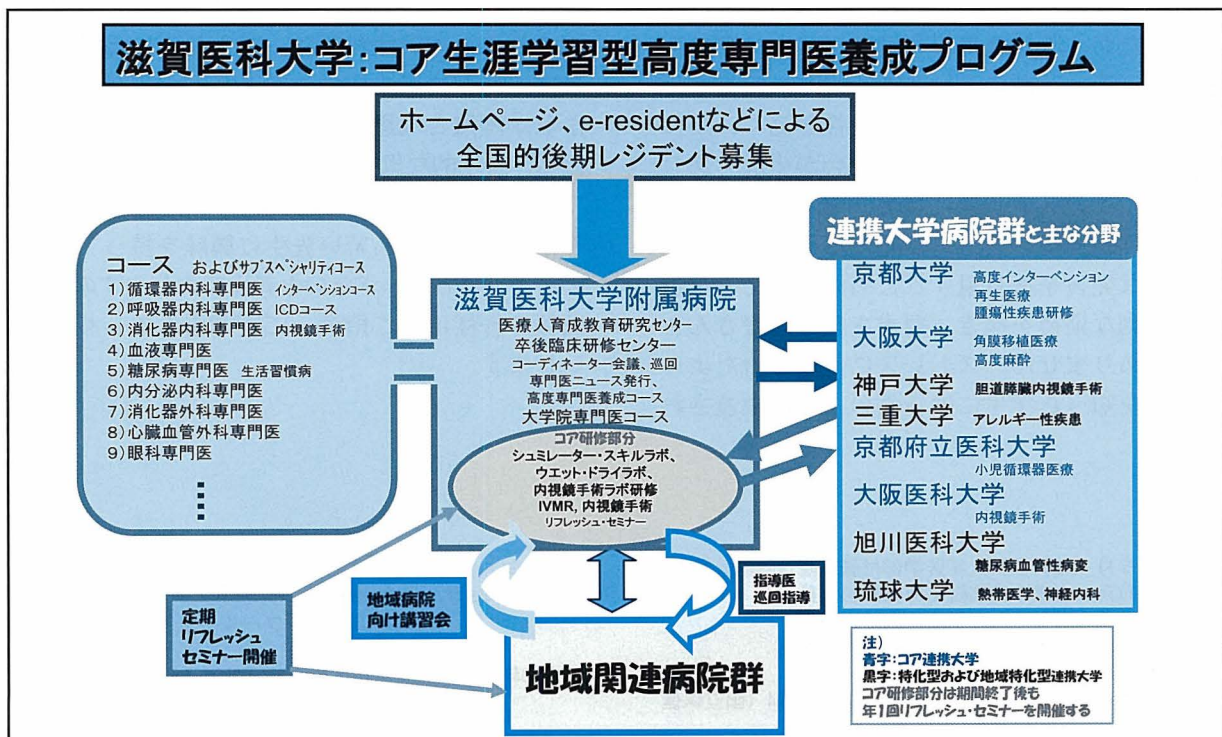
本事業は、質の高い専門医及び臨床研究者を養成し得る内容を有するプログラムに対して文部科学省が財政支援を行うことにより、大学病院及び地域医療の活性化を促進し、将来の医療を担う医師養成の推進を図ることが目的とされています。

本学が取り組むプログラムの概要は以下のとおりです。

**取組名：** コア生涯学習型高度専門医養成プログラム

**連携大学：** 旭川医科大学、京都大学、大阪大学、神戸大学、三重大学、琉球大学、  
京都府立医科大学、大阪医科大学

**取組概要：** 滋賀医科大学を中心として実施する本プログラムは高度で実践的かつ倫理性科学性に富んだ専門医育成を目標とする。各種専門医コースに高度救急医療研修システム、各種手技の実践前スキルスラボ実習、動物実験施設などを使用した内視鏡・サージカルラボなどの確保を図る。各コース共通にファカルティ・ディベロップメントとして医療理論、医療安全、医療統計学、臨床治験などに関するセミナーなどを開催し倫理性、科学性を備えた専門医および大学院コースを併設し臨床研究者を養成する。これにより多様化した医療分野・地域医療のニーズに対応する。連携大学は一部の大学に偏らず連携先から各々の得意分野に特化あるいはコア連携した研修を行う。専門医取得後も定期的に年1回リフレッシュセミナーを開催し診療技術の研鑽・習得を行う。



新任教員  
紹介

# 脳神経外科学講座

## 准教授 鈴木 文夫

平成20年7月1日付けで滋賀医科大学脳神経外科学講座の准教授を拝命いたしました。当大学を2期生として卒業後、本院脳神経外科において初期研修を受けた後、大津市民病院にて脊椎・脊髄疾患、京都シミズ病院において頭部外傷、脳卒中の研修を行いました。その後は滋賀医科大学で脳神経外科全般、その中でも脊椎・背髄を専門とし、最近では先天奇形など小児脳神経外科の診療もさせていただいております。

研究も昔ながらの“二足のわらじ”スタイルで続けてきました。第1解剖前教授の前田敏博先生のご指導のもと先天性水頭症の研究を行い学位としました。また前田教授にはフランス留学の機会を与えていただき、1994年から2年間研究員として留学しました。この際に非常に興味深い動物モデルを発見し、側頭葉てんかんモデルとしてフランスを中心に認知されるようになり、2000年には再度フランスから招聘され留学させていただきました。それ以後もフランスの研究室と共同研究を続けています。

最近では頻りに医師不足が報じられるようになりましたが、脳神経外科も同様で特に深刻な問題として若い医師の不足があります。脳神経外科は脳出血、頭部外傷など緊急性が高く、かつ重篤な患者さんの治療を行う機会が少なくありません。このストレスに加え、マスコミに好かれる脳神経外科の名医達が時には疑問を抱かせるような発言を繰り返すことも原因して、最近では過剰な期待を抱き、要求される患者さんも少なくありません。ストレスに包囲されたような事情を知った学生には当然のように敬遠され



全国的にスタッフの高齢化と減少が問題となっています。この状況を好転させるにはやはり若いスタッフの増加が必須です。本年2月より野崎新教授が就任され、覚醒下手術をはじめ多岐にわたり精力的に取り組まれ、興味を示す学生も増えてきていると感じております。私も微力ながら当科の活性化に協力し、若いスタッフが研修を希望するような科になるよう努力していきたいと考えております。

また、近年の傾向として研究を行う機会が、特に外科系の診療科では、減少していると思います。臨床に費やす労力を考えると現状ではなかなか困難とは思いますが、研究で培われる計画力、科学的な思考過程の習得は“時間の無駄”ではなく重要なことと考えています。臨床だけではなく研究でも若い先生に興味を持ってもらえるようにしていきたいと考えておりますので、関係の皆様にはご指導、ご鞭撻をよろしくお願い致します。

(経歴)

昭和57年5月 滋賀医科大学医学部付属病院(研修医)勤務  
 昭和57年11月 大津市民病院脳神経外科医員  
 昭和59年4月 滋賀医科大学脳神経外科助手  
 平成元年4月 洛西シミズ病院脳神経外科医員  
 平成3年7月 滋賀医科大学脳神経外科助手  
 (平成4年4月～平成6年2月 フランスINSERM(国立保健医学研究所)研究員)

平成11年6月 滋賀医科大学脳神経外科講師  
 (平成12年9月～平成13年8月 ストラスブール大学招聘教授<在ストラスブール平成12年9-12月、平成13年1-5月>)  
 平成20年7月 滋賀医科大学脳神経外科准教授

## 臨床看護学講座

### 教授 桑田 弘美

2008年8月16日付で看護学科臨床看護学講座に着任させていただきました。学生の皆さんには前期に非常勤で授業をさせていただきましたが、元気で明るい学生さんが多いなあという印象を持ちました。初回の講義のときに自己紹介したら、4人の娘の子育てをしながら仕事をしてきたことに興味を持ってくれて、よくそのことを質問してくれました。現在の「子どもの健康を守る親の育児行動」は、私が子育てを始めた頃に比べると、ずいぶん変化してきているように感じていますので、今の親御さんがどのように育児をしていらっしゃるのか、どのようにしつけをしていらっしゃるのか、調査をしているところです。今の親御さんの育児のあり方を知り、これからの育児を担う親御さんや学生さんに（将来的に）アドバイスができるように知見を広めたいと思っています。

また、難病や障害をもつ子ども達の在宅ケアへの支援をライフワークとして、地域の子ども達やご家族の方々に関わらせていただいています。子どもの在宅ケアといっても、子どもの難病や障害の状況によって、在宅療養の困難さが違ってきます。そうした子ども達やご家族の方々の在宅療養の実際について調査していますが、



当事者の方々は、とにかく実態を医療者の方々にもっと知ってもらいたいと強く願っていることを知り、特に私たち看護職者には、情報の提供はもちろんですが、日常生活援助のプロとしてケアの工夫を教えて欲しいこと、子ども達やご家族の方々の代弁者になって欲しいと思っ

ていらっしゃることを痛感しました。これからも小児の在宅療養支援方法について、さらに研究を進めていきたいと思っています。

岐阜から初めて出てきて、わからないことばかりで、看護学科の先生や事務の方々に1つずつ教えてもらいながら日々を送っています。ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

#### (経歴)

1980年 岐阜大学医学部附属看護学校卒業 岐阜大学医学部附属病院看護師  
1998年 佛敎大学通信教育課程社会学部社会福祉学科卒業  
2000年 岐阜大学大学院教育学研究科障害児教育専攻修了  
教育学修士  
岐阜大学医療技術短期大学部助手

2005年 岐阜大学医学部看護学科講師  
2006年 岐阜大学大学院医学研究科医科学専攻分子病態学  
分野修了  
医学博士  
2007年 岐阜大学医学部看護学科准教授

## 海外自主研修

### メルボルン大学での自主研修

医学科第4学年 齋藤英貴

私は8月の終わりから4週間、オーストラリアのメルボルン大学に行かせていただきました。同じ4回生の笹原君と一緒にやってきたのですが、非常に有意義で刺激的な毎日を過ごすことができました。

当初、私は自主研修は自分の大学でできるのだから、わざわざ海外に行かなくても…と考えていました。しかし、医学英語の講義でいろんな先生の海外留学の話を知ったり、「勢多だより」の先輩方の経験談を読んだりするうちに、「せっかく海外で生活できるチャンスがあるのだから行ってみたいな」と考えが変わってきました。メルボルン大学を選んだのは、研究内容に興味を持ったことと、単純にオーストラリアに行ってみたくということからでした。

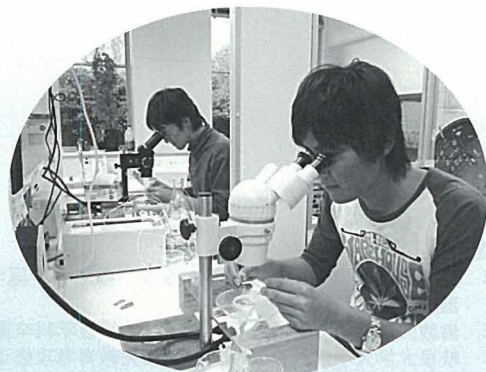
メルボルン大学を紹介してくださったのは解剖学講座の藤宮先生で、海外のLabに行くにあたり、基本的な実験の方法や手技について教えてくださいました。3回生の1月から毎週、Immunohistochemistryの練習をして、春休みも実験をさせていただきました。しかし、藤宮

先生が今年の6月に札幌医大の教授になられるということで、それ以降は実験等の準備はしませんでした。一方、私は英語を話すのも聞き取るのもダメということだったので勉強しようと思っていたのですが、クラブやバイトやらで忙しいということを利用して全くしていませんでした。さすがにヤバイ！と思ったので、ニンテンドーDSの「英語漬け」をやりましたが、どれだけ効果があったかはわかりません。結局、不安を残したままメルボルンへと旅立ちました。

研修先はメルボルン大学のAnatomy and Cell Biologyという講座のProfessor John Furnessの研究室でした。Furness先生は消化管の壁内神経系の電気生理学の分野で功績をあげており、研究室にはたくさんのスタッフがいました。初日はどうなるか不安でしたが、Furness先生が温かく迎えてくださり、研究室にいた日本人の先生を紹介してくださったので、一気に気が楽になりました。3人の学生Leni、Tanja、Laurenと中国人医師のZhengdongと一緒に部屋にデスクを用意してもらい、そこを居場所にしていました。



LabのあるMedical Building



Labにて実験中

初めのうちは、誰かがやっている実験や手術を見学しているばかりでしたが、2週目からは実際に実験をさせてもらいました。具体的には、モルモットやマウスから取り出した十二指腸と大腸を固定・染色して顕微鏡で見ることや、取り出した小腸を切り開いて漿膜や筋層をピンセットで剥がしていく練習をしました。（私はピンセットの先を曲げてしまい怒られましたけど…）他にも、週に2回あるセミナーや、医学生の解剖実習に参加させてもらうなど、様々な経験ができました。

心配していた英語ですが、研究室の人はみんな優しく、ゆっくり話してくれて、私が話すときも理解しようとしてくれたのでとても話しやすかったです。ただ、一緒に飲みに行ったときは8割くらい何を言っているかわからなかったもので、まだまだ勉強が足りないと感じました。

私が滞在したのは、Graduate Houseというところで、メルボルン大学の修士・博士課程の学生や一時的に大学に来ている人のための寮でした。基本的に英語がペラペラの人ばかりだったので、食事のたびに話しかけられては冷や汗たらたらで対応するという感じでした。しかし最後のほうでは知り合いが増えて、快適に過ごすことができました。いろんな国の人と知り合いになれたのは良かったのですが、もっと話したいのに英語がうまく話せなかったのは残念でした。

休日はメルボルン中を観光しました。同じ建物の別のLabにいた堀田先生には大変お世話になり、ワインで有名なヤラ・バレーや世界最古の蒸気機関車パフイン・ビリーなどいろんなところを案内してくださいました。堀田先生の奥さんと2人のベイビーも一緒だったので、子守



Furness先生の牧場でBBQ

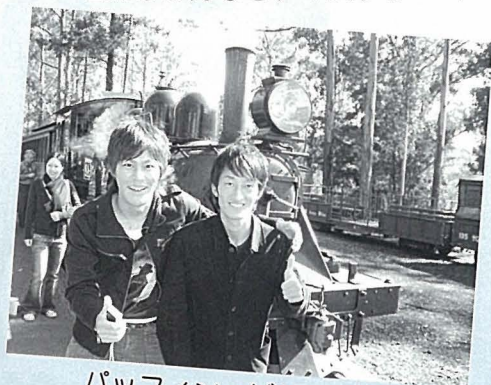
りもできてとても楽しかったです。他にも、ペンギンパレード、動物園、水族館などガイドブックに載っているところはほとんど行き尽しました。カンガルーが集団で寄ってきたときは、若干ビビりました。最後の週末には、Furness先生が所有する牧場でBBQをするということで行ったのですが、ダイナミックな景色と羊の群れを見て、さすがオーストラリア！！と感動しました。

この研修では、いろんなひとに優しくしてもらい非常に恵まれた環境で、海外の研究室の様子やオーストラリアの文化に触れることができました。大学4年生のこの時期にこのような経験ができたことは、自分の財産になっていくと思います。私も将来海外で働いてみたいと思うようになりました。海外自主研修に行くかどうか悩んでいる人は、思い切ってチャレンジしてみるのもいいですよ。

最後になりましたが、このような素晴らしい機会を与えてくださった藤宮先生、優しく迎え入れてくださったFurness先生とLabの皆さん、いろいろとお世話になった堀田先生、Leni、Tanja、Lauren、Zhengdongに本当に感謝しています。ありがとうございました。



Labのみんなとアイスクリーム



パフイン・ビリーの前で

## ケニアでの自主研修

医学科第4学年 上倉英恵

私たち4人(角田・藤本・森田・上倉)は自主研修で、引率の木藤先生と共にケニアに行かせていただきました。

参加を決めた理由として、自主研修でただ大学と自宅の往復をするだけなのつまらないので思い切って海外に出てしまえ、という考えがあったこと、去年の医学英語でビクトリア湖でボウフラを数える研究が紹介されて興味があったことが挙げられます。また、4人パーティーを組むので英語が心許無くても三人寄れば文殊の知恵で乗り越えられる、という講義での先輩の言葉が、英語力云々の前に日本から一歩も出たことがない私を勇気付けてくれました。実際、他の3人が優等生だったおかげで深刻なトラブルも無く研修を終えることができました。足を引っ張らないようにするだけで大変でしたが。

パスポート取得や黄熱ワクチン接種のために数百kmも移動しなければならず、思ったより負担が大きくなりました。特に黄熱ワクチンはケニア入国に必要なうえ、接種できる場所・日時・本数が非常に限られているので来年希望する後輩たちには大まかな研修期間が決定したら6月くらいにでも接種しに行った方がいいです。去

年12月に海外自主研修先のリストが配布され、年明け早々に希望者は学生課に赴き用紙に記入した際、その説明では春頃決定だったと記憶していますが、いつ見てもケニアの欄だけが調整中と書いてありました。これは怪しいと思っていたら、春の大統領選挙後に暴動が起り、国連の介入があって騒ぎが収まるまで待っていたかも知れず本当に行けるのか不安でした。しかし、私達はそれにもめげず前準備として6回ほど打ち合わせ兼勉強会を行いました。

かくして出発したのですが、とにかく語学力がひどい有様で、ケニア入国時に係員の英語が分からず固まっていたところ、相手が片言の日本語で対応してくれてどうにか通してくれたようなレベルでした。日本とは全く違う環境で、見るものすべてが新鮮でした。宿泊場所は去年の学生が泊まった所と同じホテルでしたが、値段が1.5倍になっていました。日本で物価が上がっているように、ナイロビでも日用品の値上がりが庶民の暮らしを圧迫しているようです。

KEMRI(ケニア中央医学研究所)支部内にある、長崎大学熱帯医学研究所ナイロビ拠点に私たちはお世話になりました。リーダーの嶋田教授を



浅香さん宅にて





長崎大学ナイロビ拠点



キベラスラムを臨む



国立病院内

はじめ、皆様温かく受け入れてくださいました。

ナイロビでは助産所、私立の子供病院、VCTとCCC、ケニヤッタ国立病院(KNH)に見学に行きました。ケニア最大のスラムの中にある助産所ではHIV感染率が高く、妊婦では半数近くに上ります。機材・薬は寄付。手術室も寄付で作られたのですが、医師がいないので使われていません。二年後ここに来ないか？と男二人は誘われていました。その翌日に行ったのは私立の子供病院で、建物・患者の様子からして全く違いました。ナイロビだけでもこれだけの格差が存在していることに驚きました。

VCTとはVoluntary Counseling and Testingの略で、無料でHIV検査とカウンセリング・患者教育を行う施設のことです。病院内に併設されていることもあります。CCCはComprehensive Care Centreの略で、薬の配布などを行っています。

ケニヤッタ国立病院はケニア最大の公立病院で、庶民がかかることのできる最高の病院なのですが、看護師が100床あたり3人しかいない科もあるほどの人手不足です。医師は開業して私腹を肥やすか、国外に流出してしまうので十分な人数が残りません。なので満足に相手してもらえなく、ほとんど中を覗けず残念でした。

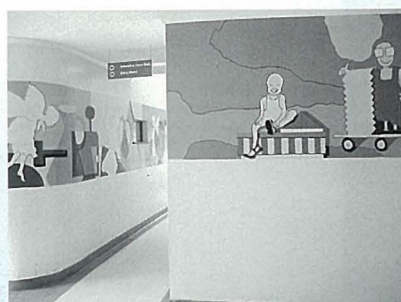
ケニア西部ビクトリア湖畔にあるスバ地区に移動、そこで県立シンド病院を見学させていただきました。病棟は蜘蛛の巣だらけの屋根裏が

見える状態でもとても清潔とはいえません。一般病棟にお年寄りが入院していたのですが、その人に対する説明「彼女は病気ではない、老いているだけだ」という医師の言葉が印象に残っています。

マラリア媒介蚊コントロールプロジェクトの一環として蚊の繁殖地についてデータを集めました。ハマダラカの見分け方を学びました。乾季が始まったばかりで繁殖地の環境が安定していなかったのも、一軒から数十匹の蚊は体験できなかったがそれはいいことです。蚊に興味がありますと中途半端に言ってしまったせいで先生方にいらぬ気を使わせてしまって申し訳ありませんでした。私の語学が堪能だったら全日程スバフィールド実習してもよかったのですが……。

研究プロジェクトはまだ軌道に乗りはじめたばかりですが、来年からはスバ地区での研究に参加できるようになるらしいです。自由度も高いのでこれは！と思った方は研修先に選んではいかがでしょうか。ケニアでしかできないことがあります。

最後に、事前準備とケニアでの19日間でお世話になった藤山先生、木藤先生、長崎大学の嶋田先生、一瀬先生、金子先生、皆川先生、本田さん、ナイロビの浅香さんご夫妻、神戸先生、KEMRIのDr.ムホホ、見学先の先生方、実習メンバー、援助してくれた家族に感謝いたします。本当にありがとうございました。



子ども病院の内装



スラムの助産所



シンド病院のベッド

## 「SickKids体験記！」

医学科第4学年 益田 さやか

大学に入って4度目の夏。

これまでのようにただ淡々と過ぎていくはずだった夏が、決して忘れることのできない夏になりました。

まさか自分が参加するとは思いませんでした。海外自主研修で、かけがえのない数々の体験と思い出を背負って帰国できたことにこの上ない喜びを感じています。

\*

私はCanada・Toronto小児病院（通称：SickKids）で自主研修をさせていただきました。日本とまた違った視点から小児医療を実践している病院であるらしいと聞き非常に興味があり、一度は見学に行ってみたく希望していた病院でした。それまでは、「海外での自主研修」ということにさほどこだわりはなかったのですが、SickKidsの募集枠を初めて見た時に直感的に「ここしかない」と思い、即決しました。私を含め4人のメンバーで、出発までの半年間に度々勉強会や現況報告をし合いながら、出発の日に向けて着々と準備を進め、当日に至りました。各々の理由をもって偶然に集まった4人でしたが、準備を通してお互いを高めあうことのできる最高のメンバーに恵まれたことを今でも光榮に思います。

\*

初めてSickKidsに足を踏み入れた時、不思議なことに「病院らしさ」は全くといっていいほ

ど感じられませんでした。吹き抜けの館内は、噴水やたくさんのキャラクター、絵画に囲まれ、カフェテリアが多く立ち並び、楽しそうにはしゃぎ回る子供達も多く、まるでアミューズメントパークのようでした。今までの病院のイメージを覆すような数々の光景に、非常に衝撃を受けました。

実習期間中、今回の研修においてご指導いただいた岡徳彦先生のご専門である心臓血管外科の見学をメインに、本学ご出身の田中基先生のご専門である麻酔科、そして感染免疫科、神経内科、研究施設の見学と、非常に充実した内容の研修をさせていただくことができました。何より、外科系、内科系、基礎研究の3分野において活躍されている各々の先生方の貴重なお話を伺えた事が、自身の将来の選択の為にも大変有意義でした。

外科系の見学では、外来見学をさせていただいた際に、スタッフの人数のあまりの多さに驚きました。問診時間も長く、患者さんのご家族が疑問に思う事を何度も納得のいくまで先生に尋ねておられ、最初は緊張した面持ちでお話をされていたご両親が最後には非常に安心した表情を見せておられたのが印象的でした。手術見学の際には、オペ室が非常に広いために手術中の移動も容易であり、ここでもやはり多くのスタッフが室内におられました。どのスタッフの



観光で行ったナイアガラの滝。結構迫力ありました(笑)

方もとても親切であり、装置やモニターの前で立ち止まる度に詳しい説明をして下さり、非常に知識が深まりました。

内科系の見学では、スタッフの方々は全員私服姿で仕事をしておられる事に驚きました。日本でも白衣を着ない診療形態をとっておられる病院は数多くあるとの事ですが、Canadaでもまたその光景を目の当たりにし、患者さんやそのご家族がより親近感を持てる良い取り組みであると改めて感じました。

＊

実習が始まって間もないうちは、言語の壁が想像以上に高かった事にショックを受けました。カンファレンスやラウンドにおけるネイティブ・スピードがあまりにも速すぎて、勉強会に参加しても何をおっしゃっているのかわからず、横で先生方や他国から来た学生が質問をし、ディスカッションを繰り返す姿を見て、少し気落ちする反面、まあ初めての实習だし十分満足かな、という気持ちも正直な所ありました。しかし、たくさんの先生方にご自身のここに来るまでの経緯についてのお話をお聞きした際に、「人生の真の満足は、なるべく先にとっておいた方がいい」ということを教訓として得ました。こんなに苦勞されてもまだご自身を向上させようと目標を高く持ち努力される先生方の姿は、確実に私に影響を与えました。気落ちしているだけではせっかくここまで来て、何をしに来たのかわからない。必死に英語の文献を読み、教科書を広げ、積極的に質問し、とにかく自分にでき

ることは全てしてから帰ろう、と完全に発想が変わりました。そうすると、カンファレンスの内容も少しずつながら理解できるところが増え、自分から何かを得ていく事の楽しさに気づき、毎日自分が着実に一歩ずつ進んでいるという実感が持てるようになりました。どんなに困難に見える事でも、必死で掴み取ろうとすれば転機は訪れるのだということを、身をもって実感しました。

実習最終日、来る前とは全く違う自分がそこにいました。もっと色々な考え方を身につけて選択肢を多く持ち、将来をしっかりと見据えて、先生方のように人に影響を与えられるような医師になりたいと強く思うようになりました。

海外での研修は、本当にたくさんの出会いがあり、自分の世界を広げられる絶好の機会となります。今後研修をされる後輩の皆さんには、是非この機会を存分に活かしていただけたら非常に嬉しく思います。

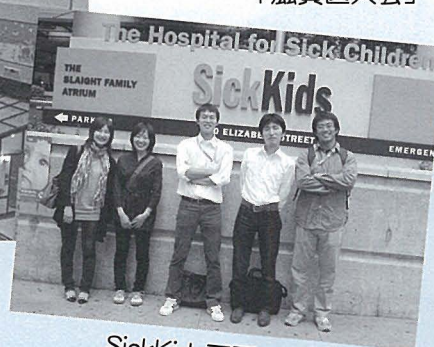
最後になりましたが、この度研修を受けるにあたりご指導いただきました相浦玲子先生、村下淳先生、そして岡先生、田中先生をはじめとするSickKidsの先生方に心から感謝いたします。本当にありがとうございました。



岡先生、田中先生と滋賀医メンバーで「滋賀医大会」を開催！！



SickKids館内の様子



SickKids正面にて

## 滋賀医科大学奨学基金奨学生の決定

本学では、「滋賀医科大学奨学基金」による奨学生として、毎年、医学科の2年～6年、看護学科の2年～4年の各学年から成績が優秀な者を1名採用し、奨学金として月額5万円を1年間給付することになっています。

このたび平成20年度の奨学生を以下のとおり決定いたしました。

医学科第2学年	大竹 要生
医学科第3学年	大石 美穂
医学科第4学年	田中 仁美
医学科第5学年	吉田 尚平
医学科第6学年	西野 恭平
看護学科第2学年	水口 藍
看護学科第3学年	磯野 佳衣
看護学科第4学年	片上 亜弥



## 奨学生に採用された感想

### 医学科第2学年 大竹 要生

このたびは奨学生に選んでいただきありがとうございますございました。

名に恥じぬよう努力をしていきたいと思ひます。

このような制度は、勉学につとめる上で大変励みになり、経済的にも非常に感謝しています。奨学生制度は対象人数を拡げるなどして、偶然性を緩和しインセンティブを高めながら、今後とも続けていただけたらと思ひます。

### 医学科第6学年 西野 恭平

この度は滋賀医大奨学基金、奨学生に選出いただき非常に光栄に思ひます。

これも先生方、友人のおかげであります。この場を借りて感謝申し上げます。

今後も、これに怠ることなく励んでいきたいと思ひます。

ありがとうございました。

### 医学科第3学年 大石 美穂

医学を学ぶ機会を与えられたこと、そしてこのような援助をしていただけることに深く感謝しています。

一般教養が全てだった1回生が終わり、専門としての2回生の授業が始まりました。専門の基礎医学はとても興味深く、特に系統解剖は印象的でそして大変貴重な学習の経験となりました。

3回生では、基礎医学に加えて臨床の講義も始まるので、どのような勉強ができるのか楽しみにしています。

2回生の時には勉強のために柔道部の部活動を休ませてもらっていたので、3回生では柔道の練習をこなしながら、しっかりと医学の勉強にも励んでいきたいと思ひています。

### 看護学科第2学年 水口 藍

大学に入学し自分の目標に向かって歩んでいく中で、さらに今年度の奨学生として学ばせていただけることは本当に幸せであり、感謝の気持ちでいっぱいです。

この喜びとともにこれからも日々、より高く、より深く、より広く自分を磨き充実した学生生活を送ってきたいと思ひます。

ありがとうございました。

### 看護学科第3学年 磯野 佳衣

奨学生に選んでいただき光栄に思ひます。

学生生活を支えて下さる先生方、家族、励まし合える友人、様々なアドバイスを下さる先輩方に感謝の気持ちです。

9月から臨床実習が始まります。患者さんや病院の方、地域の方など人との出会いやつながりを大切に経験を重ねていきたいと思ひます。

ありがとうございました。

### 医学科第4学年 田中 仁美

奨学生に選ばれ、大変嬉しく思ひます。

同時に、これまで私を支えてくれた家族や友人、そして御指導くださった先生方に心から感謝いたします。

今後も、理想の医師像を目指して日々精進していききたいと思ひています。

ありがとうございました。

### 看護学科第4学年 片上 亜弥

今回奨学基金奨学生として選ばれたことを大変光栄に思ひます。

それと同時に奨学生の名に恥じぬよう、よりいっそう勉学に励まなければならないと身の引き締まる思ひです。

このような評価を頂いたのも、ご指導下さった先生方、共に勉学に励んできた友人達、そしてなにより私の生活を支えてくれた家族のおかげだと思ひています。この場をお借りして感謝の意を申し上げます。

大学4年生となり、実習、卒業論文、就職活動、国家試験と大変忙しくなると思ひます。しかし、奨学金という後押しを頂き、今回のことを励みとし、勉学に一生懸命取り組み、知識、技術を磨いていきたいと思ひます。

ありがとうございました。

### 医学科第5学年 吉田 尚平

奨学生に選ばれて大変光栄に思ひます。

ここまで頑張ってきたのは、先生方や友人そして両親の支えがあったからだと思ひます。

これを励みに、これからも日々精進していききたいと思ひます。

本当にありがとうございました。

特に学部学生のみなさんにオススメ

# パソコン上で論文を読もう！



卒業論文やレポートを書くために文献（論文）を集める人も多いこの時期。論文を探して図書館でコピーをとる…もちろん必要な作業です。が、パソコンがあれば読める論文も結構あるんです。今回は、データベース“CiNii（サイニィ）”の検索結果から論文本文をパソコン上で読む（必要なら印刷を）、そんな便利な使い方をご紹介します。

## 1. CiNii（サイニィ）とは

- ・ 医学・看護学に限定されない（“医中誌 Web” でカバーできない）日本の学術論文情報を収録・提供するデータベース。
- ・ インターネットに接続できればどこからでも（学外からでも）無料で利用可能。
- ・ 無料公開されている論文へのナビゲート機能があり，論文本文をパソコン上で読むことができます。（有料公開のものもあります。）

## 2. CiNii を使ってみよう

- ① 附属図書館ホームページにアクセスし，「文献検索」の「CiNii（NII 論文情報ナビゲータ）」をクリック。  
（附属図書館ホームページ URL <http://www.shiga-med.ac.jp/library>）

滋賀医科大学 附属図書館

MyLibrary

検索

◆ Ovid MEDLINE/EBMR(学内のみ)

◆ EBSCO CINAHL(学内のみ)

◆ PubMed | PubMed ぐるぐるリンカーのご案内

◆ 医中誌 Web (学内のみ) VPN不可

◆ CiNii (NII 論文情報ナビゲータ)

◆ その他の文献検索

- ② CiNii（サイニィ）のトップページ。  
検索窓に検索したいキーワード(\*)を入力して，検索ボタンをクリック。

検索窓に検索したいキーワード(\*)を入力して，検索ボタンをクリック。




(\*) キーワード=論文名に含まれそうな言葉や，著者名等。  
キーワードの選び方については図書館までお尋ねください。




表示件数: 25 表示順: 出版年(新しい順) 検索

社会心理 ストレス

③ 検索結果の表示。(入力したキーワードに該当する論文が表示されました。)

論文名, 論文著者名, 掲載誌名・巻号・掲載ページ, 発行年が表示されます。

□ 21. [120000273385]高口, 央; コウグチ, ヒロシ; Koguchi, Hiroshi; 坂田, 桐子; サカタ, キリコ; Sakata, Kiriko; 黒川, 正流; クロカワ, 実 企業組織における管理監督者と組合リーダーによるリーダーシップの効果: 複数リーダーによる分  
 実験社会心理学研究: The Japanese Journal of Experimental Social Psychology 44(2),83-97,2005(ISSN 0387-7973) (日本グループ・ク  
 ■収録データベース: IR  
 ■本文: なし   

□ 22. [110002785394]池内, 裕美; 藤原, 武弘  
 移行対象の出現・消失に関する社会心理学的規定因の検討: 生育環境と夫婦間ストレスの視点か  
 社会心理学研究 19(3),184-194,20040315(ISSN 09161503) (日本社会心理学会 編/日本社会心理学会/日本社会心理学会)  
 ■収録データベース: IR, NII-ELS  
 ■本文:   

□ 23. [10010758785]藤野 善久; 溝上 哲也; 徳井 教孝; 吉村 健清  
 社会心理学的要因と自殺に関する住民コホート研究: 特にストレス、自覚的健康度について  
 産業衛生学雑誌 = Journal of occupational health 45,251,20030320(ISSN 13410725)

! 論文に表示されるアイコンに注目!

下記のアイコンがある場合は、  
 論文本文がパソコン上で無料で読める  
 可能性があります。  
 とにかくアイコンをクリックしてみよう!



クリックすると、  
 論文本文が表示されました。 😊  
 (必要があれば印刷してください。)

社会心理学研究 第19巻第3号  
 2004年, 184-194

移行対象の出現・消失に関する社会心理学的規定因の検討: 生育環境と  
 夫婦間ストレスの視点から<sup>1)</sup>

池内 裕美 (関西大学社会学部)  
 藤原 武弘 (関西学院大学社会学部)

Social psychological determinants of appearance-disappearance of transitional objects: Focusing on  
 nursing environment and marital stress

Hiromi IKEUCHI (Faculty of Sociology, Kansai University)  
 Takehiro FUJIHARA (School of Sociology, Kwansei Gakuin University)

"A transitional object" is the first possession that an infant places a special attachment toward,  
 which is not part of him/herself. Typical examples are towels, blankets and teddy bears. The  
 purpose of this study was to investigate the determinants of appearance and disappearance of  
 transitional objects with a special focus on the two factors of "nursing environment" and "marital  
 stress." Two-hundred-and-eleven mothers were asked to complete a questionnaire survey through  
 personal interviews. The main findings were as follows: (1) Transitional objects appeared in  
 bottle-fed infants more often than breast-fed infants; (2) Infants with younger siblings parted with  
 their transitional objects later than those with older siblings and those without any siblings;

!! 上記のアイコンが無い場合は!!



をクリックしてみよう!

(ただし、このアイコンは学内での利用時のみ表示されます。)

論文本文がパソコン上で読めるか(電子ジャーナルがあるか)が分かります。読めな  
 ければ学内に所蔵(冊子)があるかが確認でき、さらに、所蔵が無ければ学外からの論文  
 取寄せを申し込むことができます。

最近では、本文がパソコン上で読める論文が増えています。

その種類は、どこからでも読めるもの、学内からしか読めないもの等、様々です。

データベースを使っていて、上記のようなアイコンが表示されたら、とにかく  
 クリックしてみましょう。図書館に来なくてもパソコン上で論文が読めるかも  
 しれません。

卒業論文やレポート執筆のために、より効率的な文献入手を!

問い合わせ先: 附属図書館情報サービス係 (077-548-2080)

## ヨット部 故 嶋岡秀典君の慰霊式を挙行

本学ヨット部は、去る平成4年9月11日(金)午後4時50分に琵琶湖で不幸にも遭難した故嶋岡秀典君(入学年次:平成4年度(第18期入学))の慰霊式を今年は9月7日(日)の11時から嶋岡さんの御家族、馬場学長、ヨット部顧問藤山教授、ヨット部OB他関係者約40名の列席のもと、体育館正面の慰霊碑前にて行いました。

また、今回は久々に初代顧問の細田名誉教授がお元気なお姿を見せられました。

当日は、真夏を思わせる猛暑の中、ヨット部主将の医学科第2学年山本匠悟君が部員を代表して部活の安全対策の実践を誓いました。

### 追悼慰霊式を終えて

ヨット部主将 医学科第2学年 山本匠悟



9月を迎え、この慰霊碑の前に立ちますと、改めて自然の恐ろしさを感じ、身が引き締まる思いがいたします。

主将の交替により、滋賀医科大学ヨット部の現役部員は、2回生が6人、1回生が6人、3回生がいないという状況です。緊急事態において、適切な判断を下すための経験が不足しております。そのため、交替する前から数度にわけて安全対策講習を行い、また交替した後も2回生で1日、1回生も交えて1日、安全対策を行ってまいりましたが、まだまだ万全とはいえないのが現状です。幸い引退した先輩方が毎回のように来てくださるので先輩方の培ってきたものを学び、OB、現役一丸となって安全対策を徹底していきたいと思っております。

私たちは、嶋岡秀典さんのヨット部への思い、ご家族の方々の思いを真摯に受け止め、現在のヨット部がありますことを感謝するとともに、二度とこのような悲しい事故を起こさないことを誓います。

最後になりましたが、嶋岡秀典さんの安らかな御冥福を心よりお祈り申し上げます。





## 平成20年度オープンキャンパスを開催

去る7月31日(木)に医学科オープンキャンパスを、8月21日(木)に看護学科オープンキャンパスを、それぞれ本学教員及び在校生の協力を得て、本学臨床講義棟及び看護学科棟で開催しました。

両日とも滋賀県内外の高校生を中心に多くの参加者があり、医学科約400名、看護学科約250名と、過去最高の参加人数でした。

医学科では、模擬講義により実際の大学教授の授業を肌で体験していただき、また、昨年から実施した「学内施設見学」(定員制40名、2グループに分けMR医学総合研究センターとスキルラボの2ヶ所見学)は、昨年に引き続き定員を上回る申込があり大変好評でした。

看護学科では、毎年好評の見学実習(体験を含む)をそれぞれの分野で工夫を凝らし4つの実習室で行いました。また、参加者には大学内の学生生活の一部を気軽に体験していただくことを目的に「お食事券」を配布し、学生食堂で昼食をとっていただき、こちらも大変好評でした。







## 編集後記

セメスター制の学年歴が現行のようになって、夏休みを有効に活用できる学生が増える傾向で喜ばしく思います。学期中はカリキュラム通りに授業に出席する日々に、どうしても受け身の学生生活になり勝ちですが、長い夏休みこそ自分の思い通りに非日常的な経験を積める貴重な期間と言えましょう。

今年も西医体の参加者や海外自主研修を体験した皆さんが期待以上に素晴らしい手記を書いて投稿してくれました。先輩達からよい刺激を受けて、これから課外活動を更に充実したものにし、夏休み明けの「勢多だより」だけでなく、年4回発刊される本誌が素晴らしい体験記事で溢れることを願っています。

編集長 今本 喜久子

### ● 勢多だよりの由来 ●

勢多は勢田、世多、瀬田とも書かれるが、古代、中世の文献では、勢多が多用されている。それに勢多は「勢(いきおい)が多い」という佳字名称である。従って、いきおいが多かれと願う本学関係者の想いにぴったりということ、瀬田とせず、あえて勢多とした。

(題字は、故 脇坂行一初代学長による)

勢多だより No.81

発行年月日:平成20年10月30日

編集:「勢多だより」編集担当者会議

発行:滋賀医科大学広報委員会



滋賀医科大学

SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

学章の説明

「さざ波の滋賀」のさざ波と「一隅を照らす」光の波動とを組み合わせたもの。  
「中心に向かって、外からさざ波の波動—これは人々の医への期待である。外に  
向かって中心から一隅を照らす光の波動—これは人々の期待に返す答えである。」